

# がんを予防できる HPV ワクチンのこと

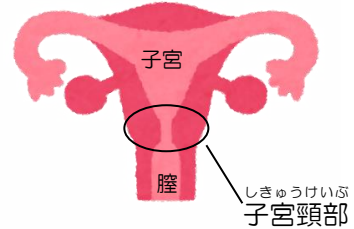
知ってる？

若い女性を中心に、毎年 1.1 万人がかかり、2,900 人が亡くなるガンがあります。

## 『子宮頸がん』

20 歳代から増え始め、30 歳代までに治療で子宮をとったりして妊娠できなくなってしまう人も年間約 1,000 人います。

子宮頸がんの原因の多くは「ヒトパピローマウイルス (HPV)」



HPV はとてもありふれたウイルスで  
50%以上の人が一生涯に一度は感染

50% ↑

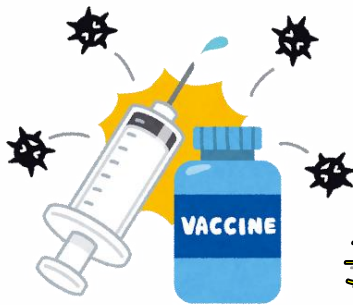
※主に性的接触で感染します。一生のうちに何度も起こりえます。

HPV には 200 種類以上の型があり  
子宮頸がんの 50~70% は 16 型と 18 型が原因

16 型



18 型



ワクチンを接種することで、HPV と戦う「抗体」が体の中で作られ、HPV が体の中に入ってくるのを防ぎます。

子宮頸がんの予防効果 50~70%

ワクチンの効果は  
少なくとも 12 年！

HPV ワクチンは国の定める定期予防接種  
「小学 6 年生~高校 1 年生」の女子は無料で接種ができます。(全 3 回)



小6

お勧めは中学 1 年生  
で 3 回です！

無料



高1

公費で受けられる HPV ワクチンは 2 種類  
＜サーバリックス (2 価)＞

HPV16 型と 18 型を防ぎます

＜ガーダシル (4 価)＞

16 型と 18 型に加え、尖圭コンジローマという  
性感染症の原因になる 6 型・11 型を含みます。  
※どちらも同じ種類のワクチンの 3 回接種が必要です。  
接種間隔がワクチンによって違います。



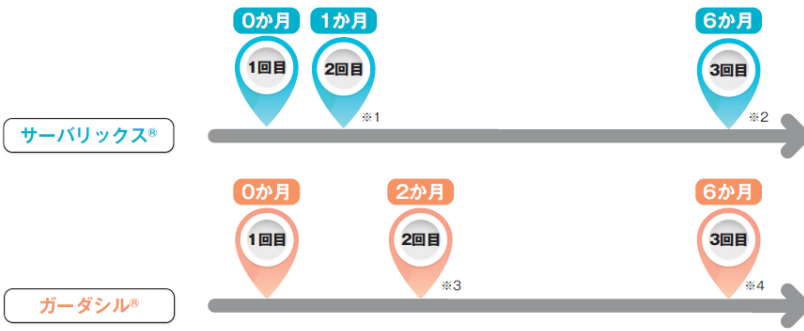
## キャッチアップ接種

平成 9 年 4 月 2 日~平成 18 年 4 月 1 日生まれの女性

国が積極的に接種勧奨をしていなかった時期に接種の機会を逃した方は、令和 7 年の 3 月末までの 3 年間無料で接種が可能です。中断した人も残りの回数が無料で接種できます。

## 接種スケジュール

どちらも1年以内の接種完了が望ましいとされています



- ※1 1回目から1か月以上あけます。
- ※2 1回目から5か月以上、2回目から2か月半以上あけます。

- ※3 1回目から1か月以上あけます。
- ※4 2回目から3か月以上あけます。

HPV ワクチンって安全なの・・・??

### <ワクチンの安全性>

世界110カ国以上で公的な予防接種が行われています。

カナダ・イギリス・オーストラリアなどの接種率は約8割！



日本では、2013年4月に定期接種になりましたが、体に痛みが続いたりするケースの報告があり、ワクチンとの関係性が不明だったので、積極的に接種をお勧めするのを中止していました。

その後、専門家がさまざまな研究や安全性について話し合いをしてきました。

**2021年11月、国の会議で安全面で特別に心配はないことが確認され、接種による有効性が副反応のリスクを明らかに上回ると認められました。**

**令和4年の4月から積極的な接種をお勧めすることが決まりました。**

### <ワクチンの副反応>

ワクチンの接種後には、多くの人に注射した部位の痛み・腫れ・赤みなどが起こることがあります。まれですが、重い症状（重いアレルギー症状、神経系の症状）が起こることがあります。

頻度	サーバリックス	ガーダシル
10%以上	痒み・注射した部位の痛み・赤み・腫れ、腹痛、筋痛・関節痛、頭痛、疲労など	注射部位の赤み・腫れ
1～10%未満	じんま疹、めまい、発熱など	注射した部位の痒み・出血・不快感、頭痛、発熱など
1%未満	注射部位の知覚異常、しびれ感、全身の脱力	手足の痛み、腹痛など
頻度不明	手足の痛み、失神など	疲労感、失神、筋痛・関節痛など

<注射後に症状が出た人の報告頻度>

1万人あたり10人

<注射後に重い症状が出た人の報告頻度>

1万人あたり6人

非常にまれですが、定期予防接種による重い健康被害が起きた場合は、国が救済（医療費や障害年金などを給付）する「予防接種健康被害救済制度」があります。保健予防課にご相談ください。

HPV ワクチンの接種は予防接種法に基づいて実施されており、子宮頸がんの予防効果などのメリットが、副反応などのデメリットよりも大きいことを確認して、国が接種をお勧めしています。

接種は強制ではなく、ご本人の意思に基づき受けていただくものです。予防接種を受ける際は、ワクチンの効果とリスクを十分に理解した上で、ご家族と相談し、受けるかどうかご判断ください。また、ワクチンは全てのHPVの感染を予防できるわけではないため、子宮頸がん検診も定期的に受診し、子宮頸がんに対する予防効果を高めることが大切です。



<問い合わせ> 久留米市保健所 保健予防課 TEL: 0942-30-9730 FAX: 0942-30-9833